

1位 「日本語の美しさ」

鈴木明世（スズキアキヨ） 新宿日本語学校

皆さん、こんにちは、鈴木明世と申します。フィリピンのマニラの出身です。去年の四月初めて日本に参りました。それから、日本語の勉強を始めました。

本日、皆さんに伝えたいことは日本語の美しさです。

日本語を勉強するにつれて、母国語の美しさにも気がつきました。外国に行くと、もっともっと自分の国のことを愛するようになるといわれています。私は、それは本当だと思います。私は日本語を習っているうちに、母国語の美しさにも気がつきました。日本語学校で様々な国の学生の話聞いて、それぞれの国の考え方を理解し、知識が増え、母国語の独特な文法や表現が分かりました。ある日の授業中、先生とクラスメートに国のことわざを紹介しました。それは「**Ang hindi marunong magmahal sa sariling wika ay mas masahol pa sa malansang isda.**」ということわざです。それを聞いた先生やクラスメートに「きれいですね」といわれたので、本当に嬉しかったです。このことわざは日本語で「自分の国の言葉を愛せない人は腐った魚にも劣ります」という意味です。フィリピンのことわざがほめられたのをきっかけに、今では、自分の国の伝統に誇りを感じるようになりました。

実は、昔からフィリピンは他の国と色々な関係があります。この関係はフィリピンの言語に様々な変化と影響を与えました。それはいいことですが、その反面、フィリピンの若者の間で、フィリピンの文学や芸能界の人気は失われてきています。この問題はフィリピン人自身が解決しなければなりません。この解決方法は、みんなが手をつないで母国語に誇りを持つことだと思います。日本で暮らしている間に、日本語の素晴らしさや美しさをますます感じています。日本語の一番独特な特徴は、言葉の使い分けだと思います。尊敬語、丁寧語、謙譲語、話し言葉と書き言葉などがあり、相手や場合によって使い方が違うものです。例えば、ほかの人に母親をさす場合、「お母さん」を使いますが、自分の母親なら、「母」を使います。さらに、せんばいに「このケーキを召し上がってください」は使いますが、ペットの猫に「このえさを召し上がってください」は使いません。私の国でも言葉の使い分けがありますが、日本語ほどの複雑さはないので、私はもちろん、ほかの外国人にとっても、大変です。しかし、その使い分けこそ、日本語の美しさだと思います。

外国語の勉強でいろいろな問題が出てきました。例えば、今まで、私は作文を書くとき、母国語で考えて、それから、頭の中で日本語に訳します。それでは、自然な日本語になりません。この方法は日本語の能力上達に役立たないのです。なぜかという、例えば、私の国にある表現を日本語に、逆に日本語からほかの言葉に直訳すると、変な意味になってしまうかもしれません。

だから、外国語の勉強は、ただ本と辞書だけで勉強するに限りません。言語は単語が集まって、文章になるばかりではなく、国民の生活や考え方や特徴などが含まれています。言

葉が上手になるために、これを理解したほうがいいでしょう。勉強しているうちに、時々つらく感じるかもしれませんが、できるだけ、勉強を楽しみましょう。

世界の言語は独自の価値を持っているのでそれぞれ素晴らしいものだと実感しました。なぜかと言うと、言語はその国の長くて豊かな歴史や文化の象徴だからです。民族のアイデンティティは特に言葉に見られます。私は、これから、フィリピンの言葉をもっともっと大切にしたいと思います。そして、日本の若い人達にも日本語を大切にしたいというメッセージを伝えたいと思います。私は勉強すればするほど、日本語が好きになってきました。もっときれいな日本語が使えるように、一生懸命頑張ります。

本日は誠にありがとうございました。